

## 令和2年度 ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員 報告

2021年2月25日(木) 15:00~16:30

ユマニテク医療福祉大学校 講堂

### 出席者

#### 【学校関係者評価委員】

関係団体 三重県社会福祉協議会 事務局次長 明石 典男 様  
関係団体 三重大学教養教育院/医学部医学・看護学教育センター(兼)教授 太城 康良 様  
関係企業・卒業生 三重厚生連三重北医療センター 作業療法室 伊藤 正敏 様  
関係企業・卒業生 医療法人 尚徳会 ヨナハ介護老人保健施設 杉浦 公紀 様  
関係企業 社会福祉法人風薫会 特別養護老人ホーム風の路施設長 山本 浩二 様  
卒業生 歯科衛生学科同窓会長 山田 順子 様  
高等学校 大橋学園高等学校校長 藤田 泰樹 様

#### 【学校側】

校長 和田 欣子 副校長 小出 益徳  
理学療法学科長 田中 宏明 作業療法学科長 橋本 昌弘  
歯科衛生学科長 北川 順子 介護福祉学科長 伊藤 幾代  
事務長 宮脇 太朗 事務職員(書記) 水谷 美加

### 欠席者

#### 【学校関係者評価委員】

地域住民 塩浜地区連合自治会 塩浜本町2丁目自治会長 清水 力 様

#### 1. 学校長あいさつ

今年度の学校自己評価結果について、学校関係者評価委員から点検・評価をいただきたい。  
忌憚のないご意見をいただき、今後の教育活動の改善に繋げたい。

#### 2. 出席者自己紹介

#### 3. 委員長の選出

太城委員を委員長に選出する。

#### 4. 学校概要説明

副校長より資料に基づいて学校概要の説明。  
委員より特に質問及び意見はなかった。

#### 5. 学校自己評価結果について

学校自己評価結果について学校長より説明を行ったのち、各学科長より教育活動、学習成果、  
学生支援について補足説明を行った。

(理学療法学科)

教育編成委員会の意見を反映し特色のある学校づくり、ユマニテクの学生としての特徴を持

たせるためのカリキュラムをつくっていく。

今年度、卒業教育セミナーとしてオンラインにてセミナーを5回開催した。次年度も計画している。

多様な学生が入学してくる状況の中、個別対応が求められ教員負担が増えている。今後、eラーニングやYou tubeなどを利用して自学自習できる仕組みを作っていく。

国家試験の合格率を上げる目的でスマホアプリを導入したが、自己採点の段階ではあるが一定の効果があった。

#### (作業療法学科)

現1年生から新しい指定規則による授業が開始し、3年間で効果をあげていくカリキュラムを編成した。来年1年かけて業界のニーズなどを聞きながら2023年度にカリキュラムの見直しをする予定。

国試合格率はここ数年全国平均に及ばない結果になっており、全国平均に持っていくと同時に卒業率も上げていきたい。来年度は国家試験対策として、理学療法学科と同じくスマホアプリを1年生から導入していく。就職に関して、作業療法士の求人は多いが、競争率が高いところでは落ちてくる状況である。就職試験対策、キャリア教育もカリキュラムに入れ込んで指導していく。

#### (歯科衛生学科)

教育課程編成委員会の意見を反映し、ニーズに対応したカリキュラムを編成している。3年に1度見直しして改訂している。

学内の施設設備は充実しているが、業界全体でのデジタル化が進んでいるため、X線撮影機などアナログのものをデジタル化していきたい。

就職率は関連施設に100%就職しており、国試も3年制になってから8年連続100%の合格率を上げている。東海地区では岐阜県の学校と当校の2校のみである。

キャリア教育の一環として、地域公開講座を地域の歯科衛生士を対象に実施している。三重県歯科医師会との連携が潤滑であり、地域的に求職者が少ないところでは歯科医師会を通して探してもらえるなど連携は取れている。

#### (介護福祉学科)

在学学生は、高校新卒、留学生、離職者訓練者と多様性を持った学科になっている。地域コミュニケーション、リクレーション等の授業を多く実施している。塩浜地区の車いすを利用する際に危険な場所の特定や外国人を対象としたMAP作りなども行っている。地域に積極的に出ることによって、地域の人々とのコミュニケーションが取れている。

留学生の日本語能力も上げつつ、国試の合格率を上げる難しさがある。勉強への熱意は高いが、介護への理解が不十分な学生にどのように指導していくか、意見を聞きながら進めていきたい。

来年度「コミュニケーション」「チームマネジメント」に関する授業を増やし、現場で求められる介護福祉士を育成していきたい。

## 6. 学校関係者評価委員による評価及び意見交換

委員長：社会貢献の評価について、認知症カフェは開催しているのか。

学科長：2年前位から学生主体で何らかの形でできないか考えているが、まだ実施してできていない。次年度は作業療法学科とともに、実施に向けた検討をしたい。

委員長：地域の方々と繋がりは大切であり、避難場所として認識してもらおうきっかけにもなるので、今後も地域貢献、地域との繋がりは大切にしていきたい。

委員：理学療法学科から話があったオンラインセミナーの参加率はどれぐらいか。

学科長：今年度5回開催して参加数はバラつきがあったが多い回では30名強あった。少ない回は学生向けのセミナーだったこともある。

委員：とてもいい試みだと思う。リアルタイムで参加できない方に向けてアーカイブなども今後検討してほしい。現場に出てからいろんな職種の専門性を理解しておくべきだと実感することが多いので、理学療法学科だけでなくそれぞれの学科の講義の実施を検討していただきたい。

委員：歯科衛生学科が実施されている地域公開講座は同窓会としてもとても有難く感じている。結婚出産などで一度退職すると復職したい気持ちがあっても日々進化していく中で戻ることが出来るのかと不安に思い、躊躇してしまうことも多いので、こうしたセミナーの取り組みはぜひ今後も継続してほしい。

委員：福祉業界としては多様な人材が働いている中で、養成校を卒業している人は、1年目・2年目であっても他の職員から質問されたりアドバイスを求められたりすることや、リーダーシップを発揮することなど中心的な役割を求められることも多い。そうした状況を踏まえて、在学中からそうしたニーズの重要性、対応できるための教育をより一層充実していただきたい。

委員：コロナ禍の状況で来年度の入学生が増加した理由などを教えてほしい。

校長：明確にこれがという理由はないが、従来県外への進学を決めていた学生が県内に留まったのもひとつではないかと考えている。またあらゆる場面においてきめ細かい個別対応を心掛けてきた。専門学校に進むことに不安が多い中で、広報が高校と上手く繋がったり、ガイダンスで教員が学生に対して丁寧に対応してきた結果、安心感につながったところが多いのではと考えている。

また、社会状況が厳しい中で、国家資格をもって働くことの重要性、社会に貢献できることに魅力を感じた学生も多かったのではないかと。

委員：生徒数の充足について高校サイドから申し上げると、職業自体が知られていないという状況が大きいのではと思う。

今年度からの試みとして、体験型学習をする時間に専門学校より先生にお越しいただき、その職業について詳しく教えていただける機会や、学内進学が決定した生徒

に向けて入学前講座を開いていただいている。こうした取組に意味があると思うので、ぜひ外に向けてアピールして進めてほしい。難しい内容のものではなく、基礎的な内容がいいのではないかと思う。

委員長：職種そのものが知られていないというのは私もすごく感じる。

先程話にてた職種連携という意味でもそれぞれの職業について知る意味があると思う。

#### **委員長統括**

1時間30分という時間の中で学校の状況や先生や職員の方々のご苦労も実感できた。

評価という点において申し上げますとオープンキャンパスや研修会、セミナー等の参加数も数値の記載があると判断しやすい。またマンパワーという部分も大切である為、教員1人が対応する学生の数などの数値の記載もあると分かりやすい。今後ご検討いただきたい。